



奥村憲照先生書

回作品の出し方

- ▼硬筆部ⅡB5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部Ⅱ半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。
- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六

(一九八二)年四月のことです。

◆「三体千字文」課題からスタートし、憲照先生の穏健中正で気品のある手本が好評を博しました。

◆短期特別課題として、平成二十四年一月から二年間と平成二十八年の一年間学びましたが、今回はその続きです。

◆原点に返って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初学者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二―五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

資父事君

曰嚴與敬

父に仕えるように主君に仕え、ここに嚴かにして敬つ。

一般部規定課題

締切り 2月19日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

軽快に

〔読み〕煩悶せざる青年は 人生初期において 足らざる所あり

なめらかに

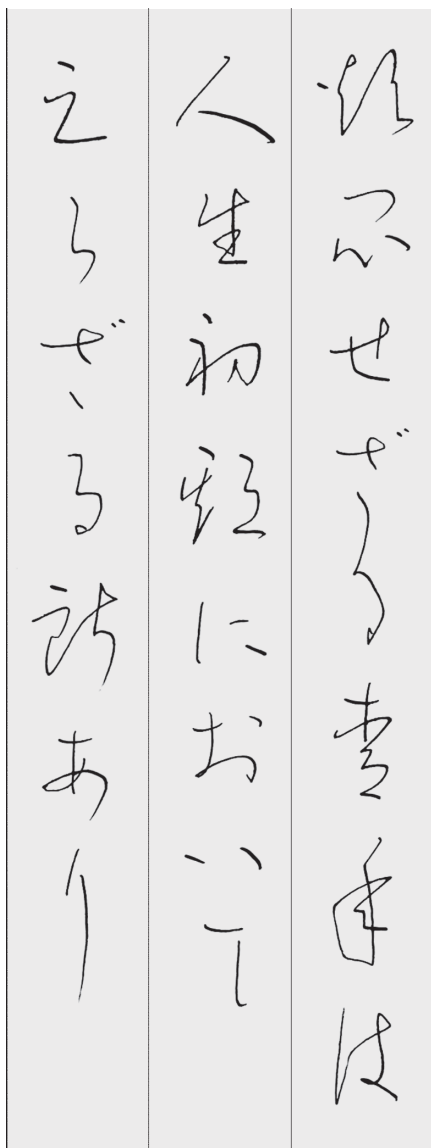
圧を

曲線の角度

之(これ) ↑ 類似形に注意

之(足)

▲教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。

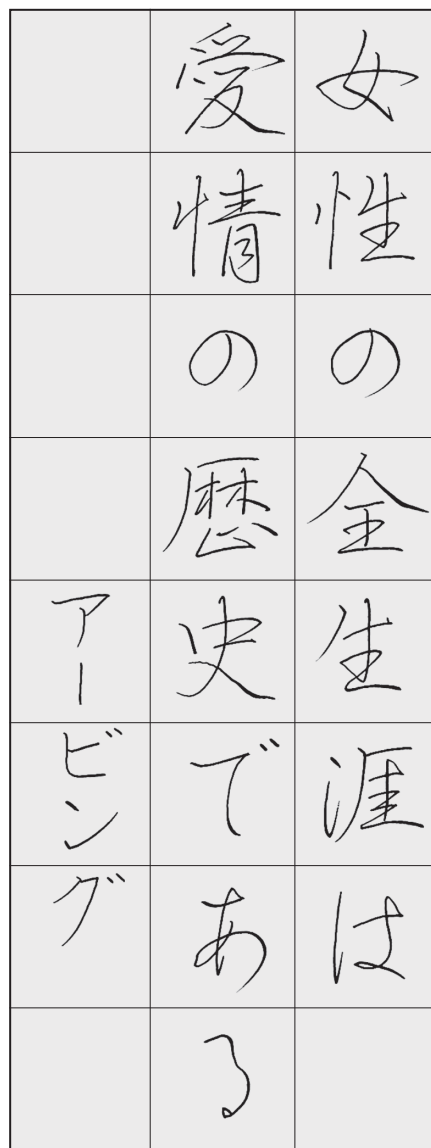


お 郷 すい こう 書
尾 郷 翠 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



ふる た ずい えん 書
古 田 瑞 苑

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆3月課題予告(行書)

希望は

強い勇気であり

新たな意志である

▼教範・書範Ⅱ楷書

▼師範Ⅱ行草または草書

★煩悶せざる…(書体Ⅱ行草または草書)

長谷川如是閑(一八七五〜一九六九)

明治から昭和時代の評論家

長谷川如是閑は自由主義の立場から、日本の国家、社会、文化について多くの論文を書きました。

このことばは、青春時代に自分の生き方について悩みを持たない者は、どこか欠けたところがあるという、皮肉をこめた痛烈な批判であります。

◆3月課題予告(楷書)

二つ折りの恋文が

花の番地を

搜している

★女性の…(書体Ⅱ行書)

アービング(一七八三〜一八五九)

アメリカの小説家

彼の作品である「スケッチ・ブック」の中に出てくる言葉です。

「子供の頃は両親や兄弟姉妹を愛し、結婚後は夫を愛し、さらに子や孫にまで心からの愛をそそぐというのが女性の自然な性情である。その意味で、女性には愛情の歴史といえるであろう」

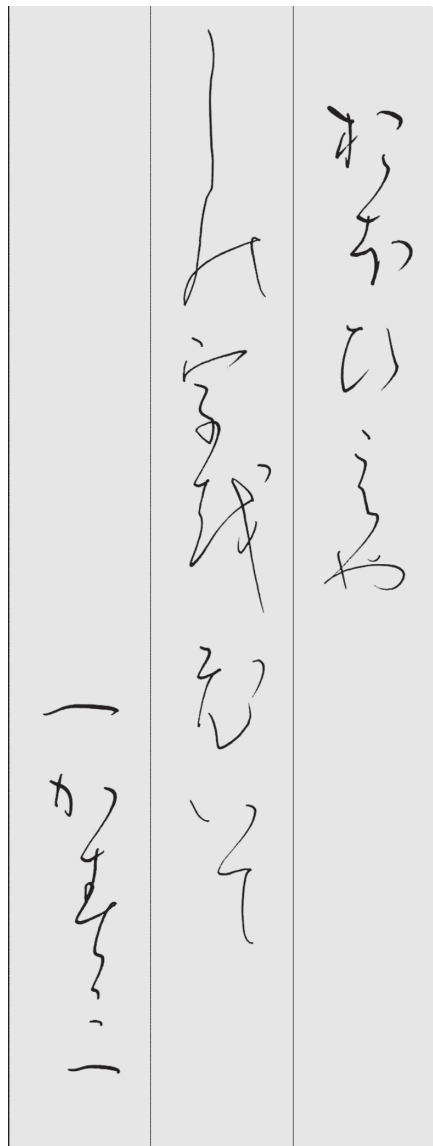
一般部かな課題

締切り 2月19日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

於本ひえ
大比叡やしの字を引て一霞
能越飛い
か春三

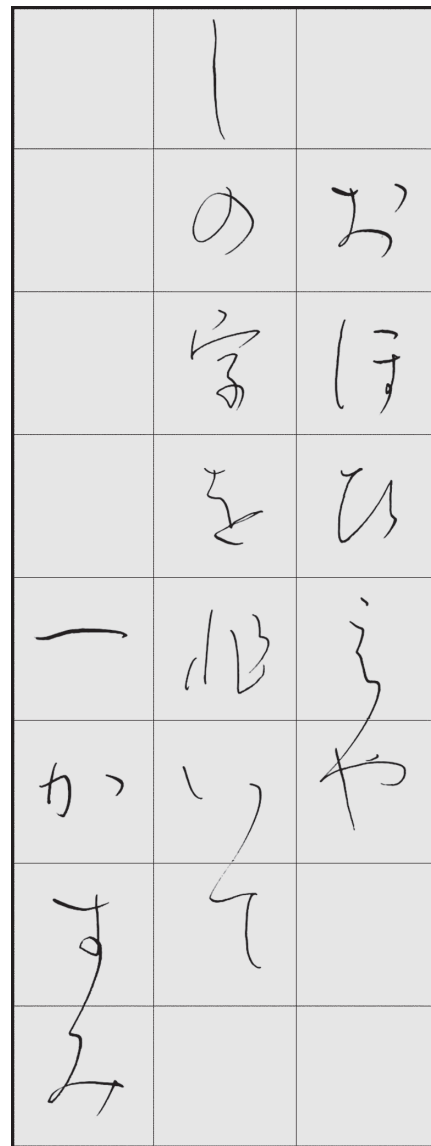


いし がき しゅう か 書
石 垣 秀 華

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

おほひえ
大比叡やしの字を引て一霞
非い
かすみ



いし がき しゅう か 書
石 垣 秀 華

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆3月課題予告

入かゝる日も糸ゆふの名残かな

飛ひ 非ひ 越を 於お
飛 非 越 於
飛 非 越 於
飛 非 越 於
飛 非 越 於

〔古筆参考〕

三の句のはじめで加えた。
と、大小の文字を組み合わせて、流れよく書いてほしい。筆圧は、一の句と
〔解説〕筆圧の強弱による太・細の線
縦に引くのを横一文字にたなびく霞の
形容にあてた。

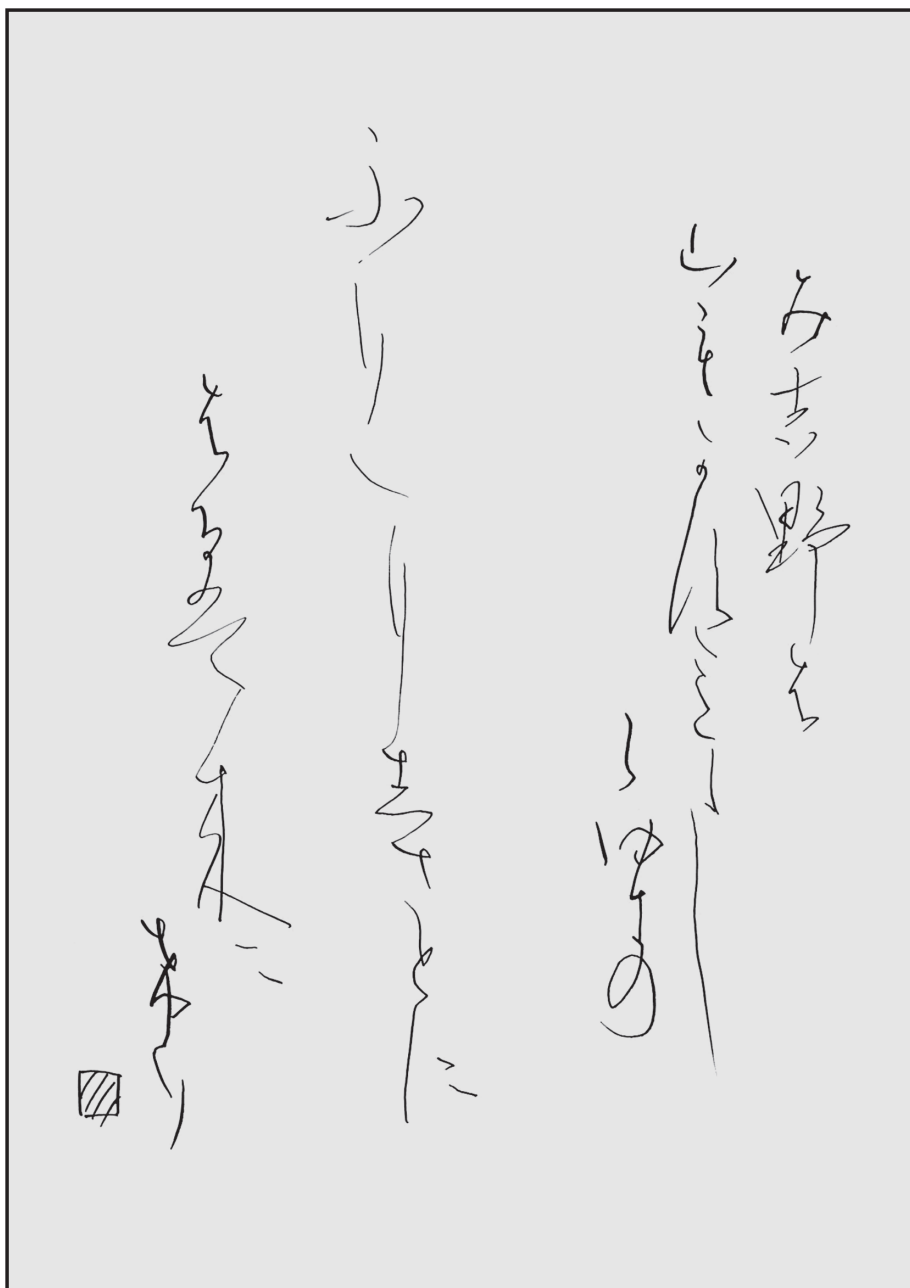
―平かなのしの字の形、即ち一直線に
の字を横に引いて、横長く霞が一筋た
なびいているの意。○しの字を引て―
は宗房、別号は桃青・風羅坊。
四) 元禄七年(一六九四)俳人。名
〔作者〕松尾芭蕉。正保元年(一六四
〔出典〕桃青、江戸廣小路(六百番発
句合)延宝五年。

芭蕉句集より)

大比叡やしの字を引て一霞
おほひえ ひい ひとかすみ

締切り 二月十九日（必着）

おお さこ しゅう こ
大迫 秀湖 書



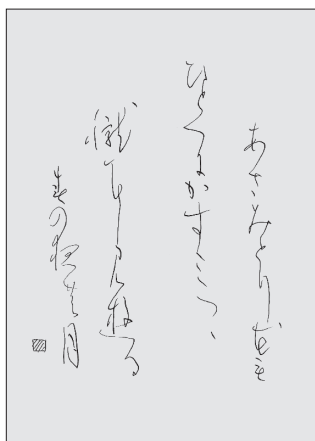
み吉野は山もかすみて白雪の
ふりにし里に春はきにけり
者毛可須三 しらゆ支
耳志さと 者る盤米二希

〔歌意〕 吉野の里はもとより山も霞んで、ついこの間まで白雪の降っていた古里にも、春は訪れたよ。
〔出典〕 新古今和歌集（新潮日本古典集成）

〔古筆参考〕

者^は 者^は 者^は 者^は 者^は 者^は 者^は 者^は 者^は 者^は
毛^も 毛^も 毛^も 毛^も 毛^も 毛^も 毛^も 毛^も 毛^も 毛^も
須^す 須^す 須^す 須^す 須^す 須^す 須^す 須^す 須^す 須^す
支^し 支^し 支^し 支^し 支^し 支^し 支^し 支^し 支^し 支^し
耳^に 耳^に 耳^に 耳^に 耳^に 耳^に 耳^に 耳^に 耳^に 耳^に
志^し 志^し 志^し 志^し 志^し 志^し 志^し 志^し 志^し 志^し
盤^は 盤^は 盤^は 盤^は 盤^は 盤^は 盤^は 盤^は 盤^は 盤^は
希^け 希^け 希^け 希^け 希^け 希^け 希^け 希^け 希^け 希^け

◆3月課題予告



あさみどり花もひとつに霞みつゝ
おぼろにみゆる春の夜の月

締切り 2月19日(必着)

庭に咲いた白梅を窓外に眺めつゝ、
お便りしています。花は青磁の
花瓶に一枝を挿し、淡墨のみで
色紙に描いてみようと思います。
拙作ができ上がりました折は、
ご批評賜りたく存じます。

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

※手本は水性ボールペン使用

庭に咲いた白梅を窓外に眺めつゝ、
お便りしています。花は青磁の
花瓶に一枝を挿し、淡墨のみで
色紙に描いてみようと思います。
拙作ができ上がりました折は、
ご批評賜りたく存じます。

横 書 き 課 題

おか じま けい せん 書
岡 嶋 桂 川

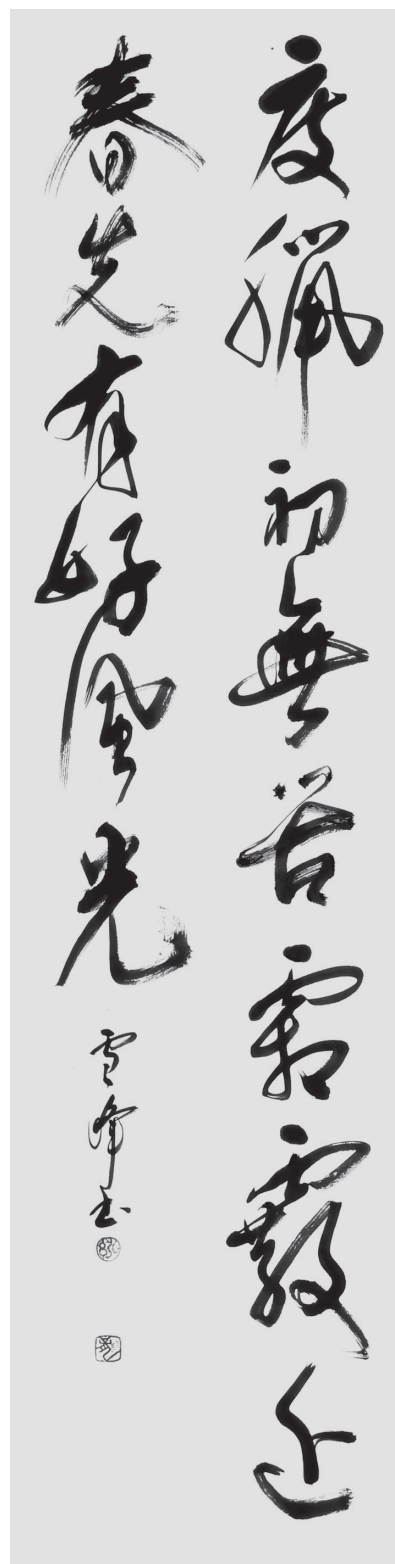
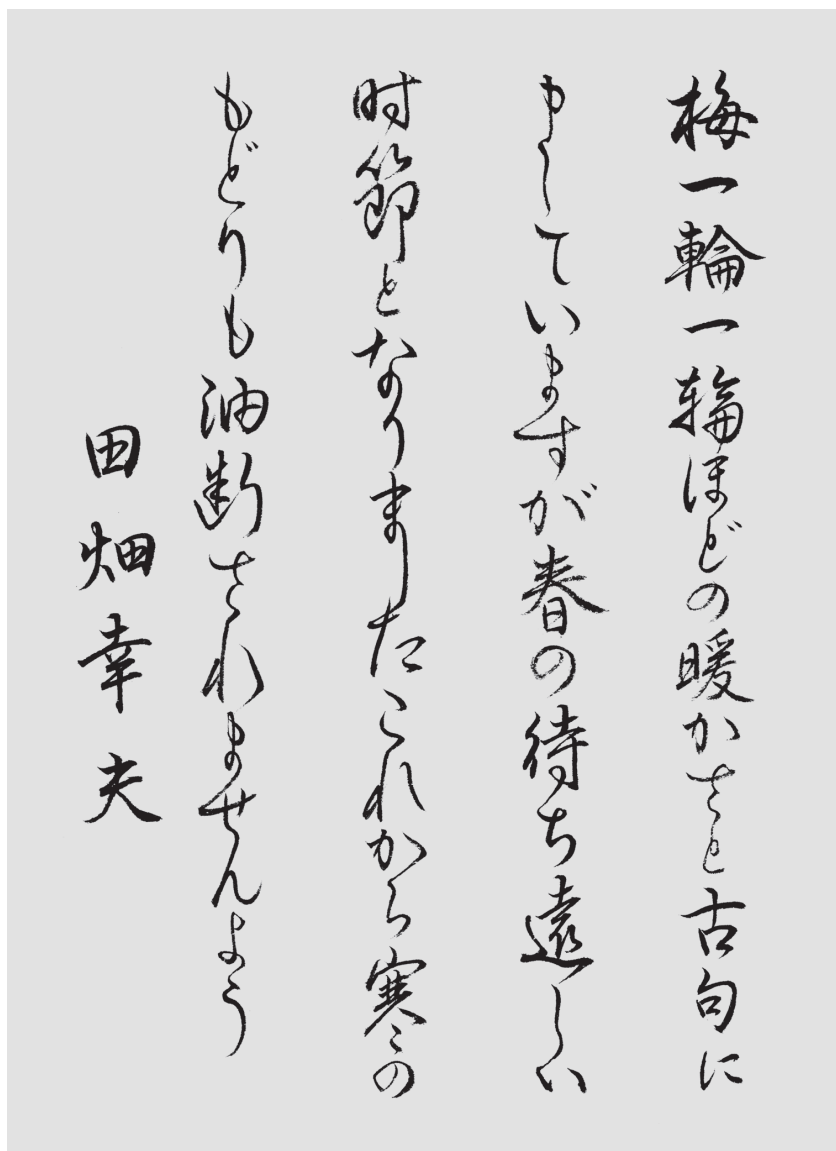
京都伏見の稻荷神社は、2月最初
の午の日、初午参拝客で賑わう。

三重県桑名市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



締切り 二月十九日（必着）

半切（一二六cm×三五cm）

新井龍峰書

度臘初無苦霜霰

近春先有好風光

白樂天

〔大意〕十二月を過ぎれば初めて霜霰に苦しむことなく、春に迫りきてまず好い景色がある。

初出品の方へ

支部名・会員番号・

姓名・毛筆漢字成績

を、作品左下に必ず

お書き下さい。

半紙（334mm×240mm）

書香梅藤伊

〔条幅解説〕

条幅に限らず、書作する場合には字形に重点を置かれる方が多いと推察いたしますが、それ以外にも大切なことがあります。それは文字の配置によって生じる行間の余白です。文字を山に例えるならば、行間の余白は溪谷を流れる水となります。行間の余白の流れにも意識して書作してみましよう。

梅一輪一輪ほどの暖かさと古句に

申してありますが春の待ち遠しい

時節となりました。これから寒の

もどきも油断されませんよう

（ご自分の氏名）

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新人から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績（天位〜5等）は、評価により毎月かわります。

■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

新入から1級まで(行書)

清水翠芳書

寒窓夢不成

かんそうゆめならず
寒窓夢不成

〔大意〕冬の寒い窓の下に寝ているが、なかなか夢が結ばれぬ。

〔解説〕

寒窓夢不成

◆3月課題予告(楷書)

春山草木新

準初段から師範まで

須田一葉 臨

尋之者 不究其

尋之者不究其

尋之者不究其

〔出典〕 集字聖教序（六七二）
〔筆者〕 王羲之法書より集字
〔読み〕 これを尋ねる者も、其の（源を）究めず。

〔解説〕

尋

者

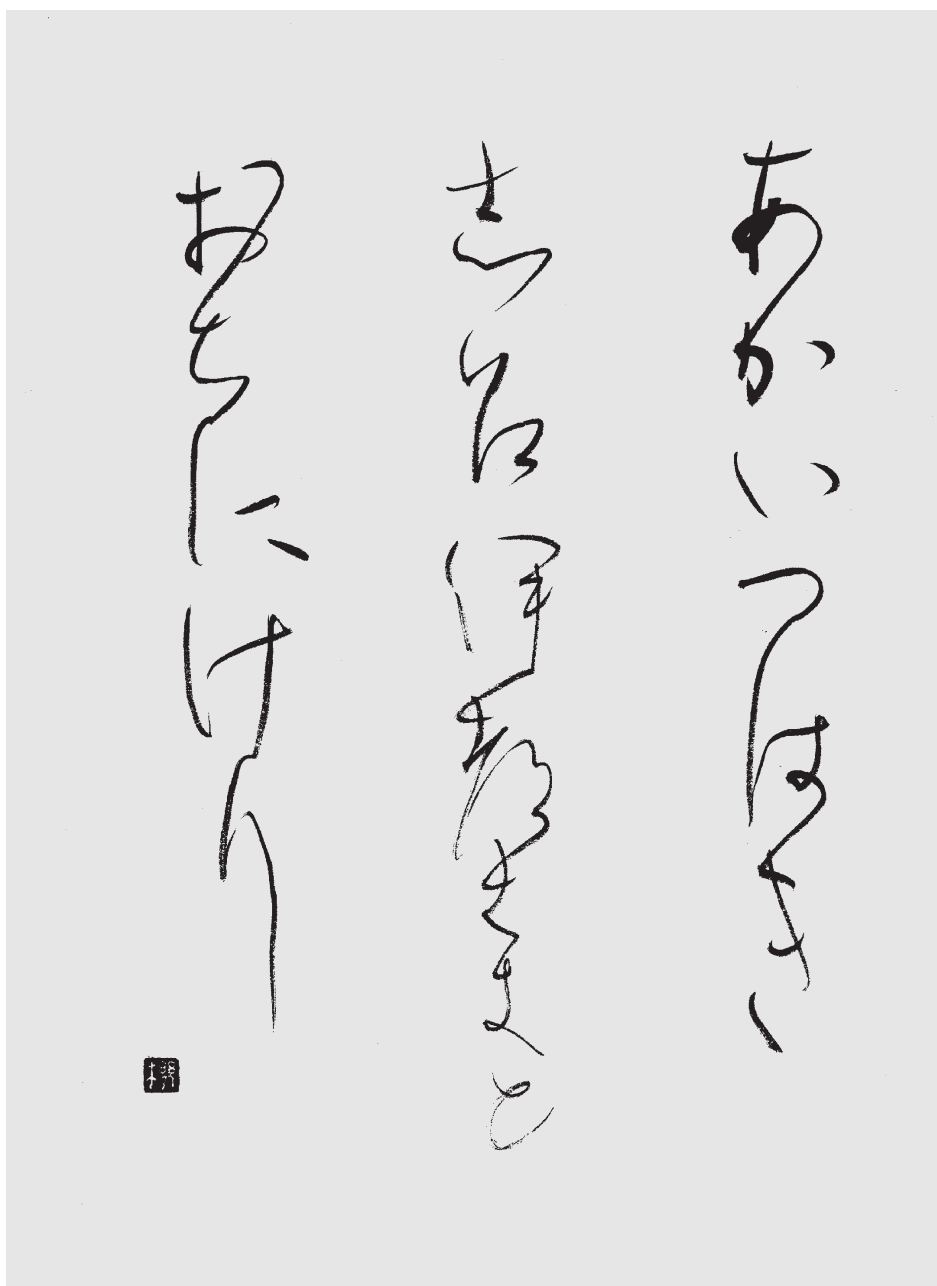
不

◆3月課題予告
※文献によって字体が異なる場合があります。

其

新入から1級まで

浅井機山先生書



あか
つはき
伊都志
白
伊都志
お
椿と落ちにけり

かわひがしき
河東碧梧桐

〔句意〕

紅白二本の椿から花がそれぞれ地上にか
たまって散っている状態を写生したも
の。春も深まった真昼の庭前の静けさが
感じられる。

〔古筆参考〕

志 志 志 志 志

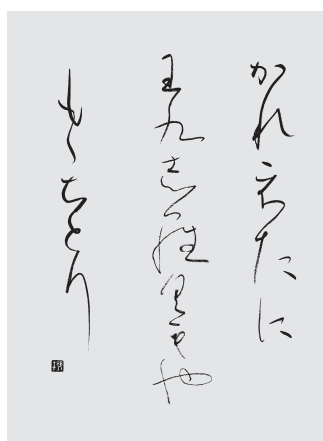
伊 伊 伊 伊 伊

都 都 都 都 都

者 者 者 者 者

支 支 支 支 支

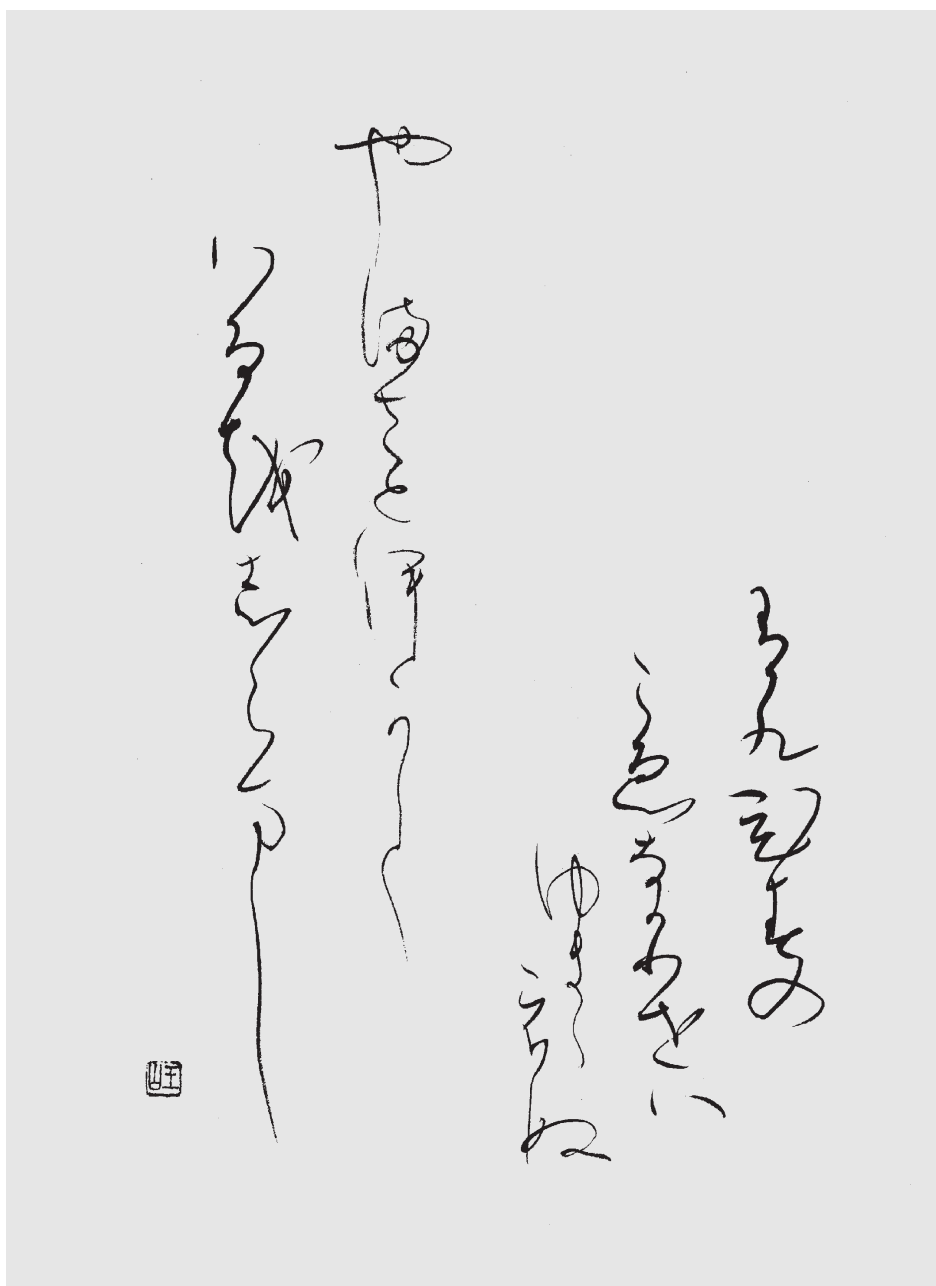
◆3月課題予告



かれさきに
枯枝に湧く白雲や百千鳥

準初段から師範まで

浅井機山先生書



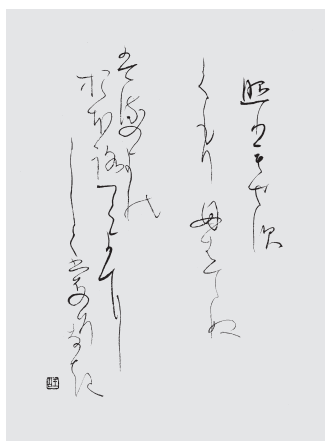
有九飛春
うぐひすの
や満さと伊可弓八る越志万
山里いかで春を知らまし
藤原朝忠

〔歌意〕
鶯の声が聞こえなかったら、この雪のまだ
消えぬ山里では、どうして春と知ることが
できようか、春になったことがわかりはし
ない。

〔古筆参考〕

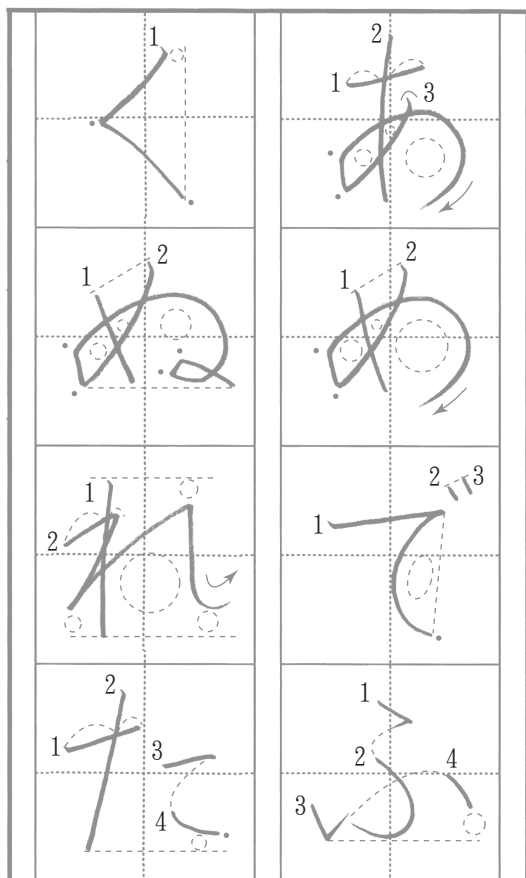
飛ひ 春す 利り 弓て 越を 志し
飛ひ 春す 利り 弓て 越を 志し
飛ひ 春す 利り 弓て 越を 志し
飛ひ 春す 利り 弓て 越を 志し
飛ひ 春す 利り 弓て 越を 志し
飛ひ 春す 利り 弓て 越を 志し

◆3月課題予告



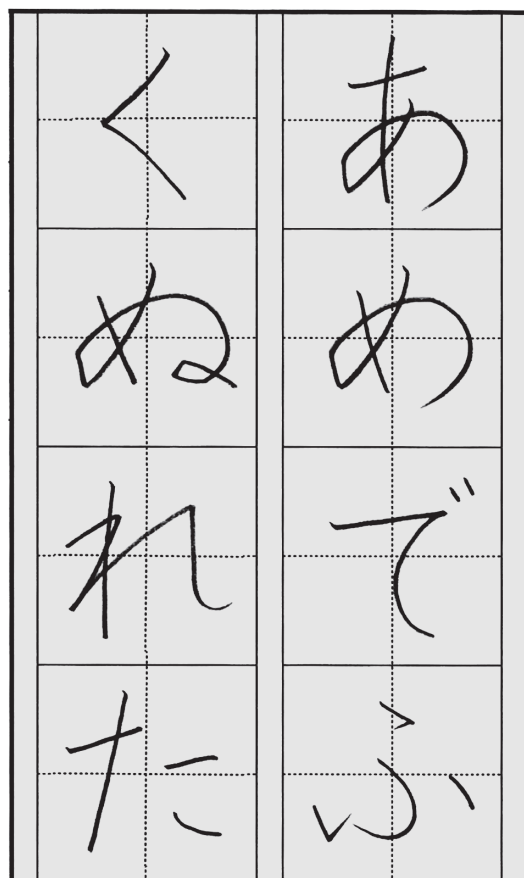
照りもせず曇りも果てぬ春の夜
おぼろ月夜にしくものぞなき

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



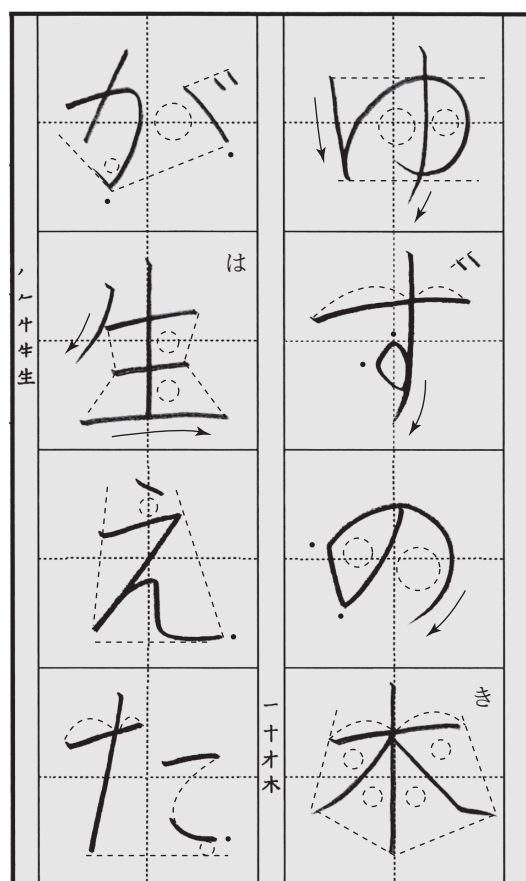
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



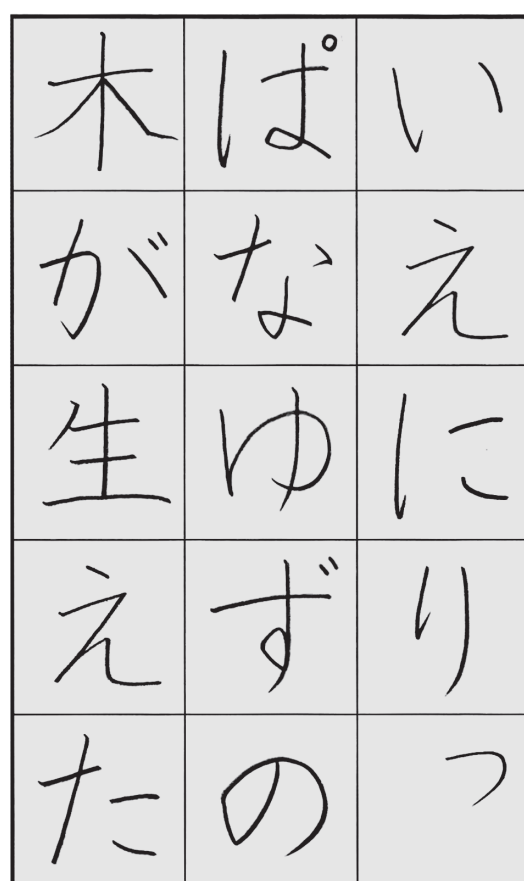
よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

一丁千王	オウ 王	さ
く女女	ジョ 女	む
	の	い
はなし 話話	話	くに 国

新入1級

の	い	と
お	国	て
話	の	も
で	王	さ
す	女	む

小二年

準初段以上

の	次
温	は
せ	冬
ん	山

新入1級

の	家	次
温	族	の
せ	で	土
ん	冬	曜
へ	山	は

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)

く	一五五	五
雪	ゆき	十
祭	まつ	年
続	つづ	続

新入〜1級

の	年	明
雪	続	日
祭	く	は
り	地	五
だ	元	十

小四年

準初段以上

小四年以上
前 岨 玉 華 書

集	あつ(まる)	市
講	コウ	民
演	エン	会
聞	き(く)	館

解説(よく見て習いましょう)

演	集	市
を	ま	民
聞	っ	会
い	て	館
た	講	に

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

しめきり 2月19日(必着)

小六年

(全員)

ら	統	尊
技	工	敬
を	芸	す
学	師	る
ぶ	か	伝

解説
(よく見て習いましょう)

〈用具〉自由（黒色に限る）

一 サ サ サ サ 芸 芸	ゲイ 尊	ソシ 尊
ノ イ 戸 自 師 師	一 サ 乃 尊 敬 敬	ケイ イ 敬
一 オ オ 抄 抄 技 技	ノ イ 仁 伝 伝	デン 伝
、 ミ 心 学 学	まな(ぶ) 学 統	トウ ウ 統

中
一
年

（行書）

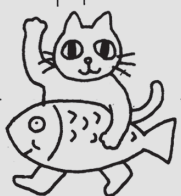
い	集	祖
記	め	父
念	た	カバ
硬	珍	長
貸	し	年

中二・三年（行書）

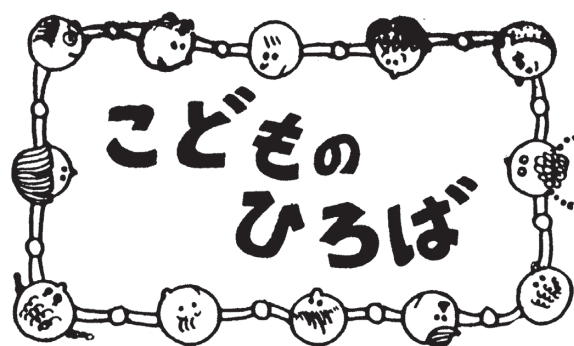
心	来	予
変	事	想
に	は	外
対	臨	の
処	機	出

▼小三年以下の課題 出井美華書

魚 <small>さかな</small>	ニ	こ	一 <small>いち</small>	う
に	ヤ	た	日 <small>にち</small>	ち
目 <small>め</small>	ー	つ	中 <small>じゅう</small>	の
を	と	で	の	ね
光 <small>ひか</small>	鳴 <small>な</small>	丸 <small>まる</small>	ん	こ
ら	い	く	び	は
せ	て	な	り	
る				



◎お手本はえんぴつ使用




しめきり 2月19日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 まし づめ せい こう 書
猿 爪 静 光

冬 <small>ふゆ</small>	繰 <small>く</small>	熱 <small>あつ</small>	風 <small>かぜ</small>	世 <small>せ</small>
の	り	い	に	界 <small>かい</small>
五 <small>ご</small>	広 <small>ひろ</small>	戦 <small>たたか</small>	は	各 <small>かく</small>
輪 <small>りん</small>	げ	い	た	国 <small>こく</small>
	ら	が	め	の
	れ		き	旗 <small>はた</small>
	る			が



◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



小二

王女

サ
シ

め

幼年／小二年

酒井智仔書

王 め

女 ゆ

小一

ゆず

小五
会市
館民

山冬
小三
の

祭
冬
民
山
館
雪

り雪
小四
祭

小三、小五年
柴しば田た桃とう花か書

中
二
三

臨 変
機

小
六

伝 芸
統

小六／中二・三年

永谷恵子書

※行書は線の連なりに注意して書こう。

貨

臨

機

伝

統

硬

中
一

硬 記
貨 念